

タクシャの基原植物サジオモダカとその類縁植物の形態について

○福田 達男¹, 石川 寛¹, 小林 義典¹, 石井 邦雄¹, 鈴木 幸子², 北川 重美²
(¹北里大薬, ²都健安研セ)

【目的】サジオモダカ *Alisma oriental* (*A. plantago-aquatica* var. *oriental*) は *A. plantago-aquatica* (Ap) と比較し、花のサイズが小さいことから別種とされるが、サジオモダカ, Ap, ヘラオモダカ *A. canaliculatum* の rDNA の ITS 領域を比較した結果、各植物 1 塩基のみが異なり 3 種とも極めて近縁な植物であることを報告してきた¹⁾。本報ではサジオモダカとその類縁植物をさらに広く導入し、花等の各器官の他、タクシャ及び類縁植物の乾燥塊茎を作り、その形態について比較検討したので報告する。

【方法】サジオモダカ 7 系統, Ap 14 系統, ヘラオモダカ 3 系統, *A. lanceolatum* (Al) 4 系統及びトウゴクヘラオモダカ *A. rariflorum* 2 系統を国内の他、中国、韓国、ヨーロッパ及び北米から導入し栽培した。形態については葉、花及び果実について前報¹⁾の方法で調査した。タクシャ及び類縁植物の乾燥塊茎の生産については、各植物の苗を 1/2000a ワグネルポットに植え付け、10 月から 2 月にかけて無加温のビニールハウスで栽培した²⁾。

【結果・考察】サジオモダカ, Al, トウゴクヘラオモダカは葉及び果実の形態で区別ができ、サジオモダカ及び Ap とも区別ができた。サジオモダカと Ap は葉及び果実に形態上の違いがなく、種の区別点とされる花のサイズについても、各サジオモダカの 1 花穂の 1 番花が $3.1 \pm 0.0 \text{ mm} \sim 4.8 \pm 0.1 \text{ mm}$ 、最終花が $1.9 \pm 0.2 \text{ mm} \sim 3.7 \pm 0.2 \text{ mm}$ で、Ap の 1 番花が $1.9 \pm 0.1 \text{ mm} \sim 7.6 \pm 0.2 \text{ mm}$ 、最終花が $1.6 \pm 0.1 \text{ mm} \sim 4.2 \pm 0.3 \text{ mm}$ で、両種の間有意差が認められない系統が多数あった。タクシャ及び類縁植物の乾燥塊茎はサジオモダカと Ap は抽苔しなければ塊状の球形、または平たい球形を呈した。Al は多数抽苔し不定塊で、ヘラオモダカは小型の塊状で平たい球形を呈した。このようにサジオモダカと Ap の間には形態上差が認められなかった。

1) 日本生薬学会第 47 回年会(東京)講演要旨集, p.158, (2000), 2) Nat. Med. 53(4):159-165(1999).